

中部大学に対する改善報告書検討結果

＜大学評価実施年度：2020年度＞

＜改善報告書検討実施年度：2024年度＞

中部大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、2点の改善課題の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

＜改善に向けた大学全体の取り組み＞

大学評価（認証評価）の結果及び自己点検・評価の結果を踏まえ、2021年度から、大学全体の内部質保証を担う「内部質保証推進委員会」において、全学的な課題及び学部・研究科に関する課題に対する具体的な改善に向けた対応策について検討してきた。それに基づき、学部・研究科、「教務委員会」「大学院定員充足率改善検討委員会」等が中心となって改善に取り組み、「内部質保証推進委員会」において、改善の進捗状況を確認しつつ、継続的に審議している。このように、「内部質保証推進委員会」を中心として、課題に対する改善を継続的に行っていくための仕組みを整備し、大学全体で計画的に取り組んでいることが認められる。一方で、今回の改善報告書において、改善に向けた取り組みの成果が十分ではない点があることから、「内部質保証推進委員会」のもと、継続的に改善に取り組んでいくことが求められる。

＜是正勧告、改善課題の改善状況＞

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいえない。

改善課題については、学生の受け入れにおける定員管理の問題に関して、今後もさらなる改善に努めることが求められる。

個別の提言への改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、各提言に対する検討所見のとおりである。なお、前回の大学評価時には指摘対象となっていなかった事項について、今回の改善報告書提出時には提言に相当する問題が生じているため、検討所見を参照し、次回の大学評価に向けて改善に取り組むことが求められる。

1. 是正勧告

なし

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	応用生物学部食品栄養科学科管理栄養科学専攻

中部大学

		<p>では、1年間に履修登録できる単位数の上限が52単位と高く、さらに厚生労働省が所管する国家資格取得などの資格取得に関わる科目や学外実習等の科目について、上限を超えて履修登録することを認めている。これにより実際に多くの単位を履修登録する学生が相当数おり、シラバスにおいて予習と復習の内容を記載しているものの、単位の実質化を図る措置は不十分であるため、単位制の趣旨に照らした改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>大学評価で指摘を受けた応用生物学部食品栄養科学科管理栄養科学専攻を含め、全学部・学科において、1年間に履修登録できる単位数の上限を50単位未満に統一し、2022年度入学者から適用している。これにより、応用生物学部食品栄養科学科管理栄養科学専攻では、大学評価時に比して、1年間に50単位以上履修登録している学生の割合が減少しており、改善が認められる。</p> <p>なお、依然として資格取得のための科目については、履修登録単位数の上限に含めていないことに加え、単位の実質化を図るその他の措置については大学評価時から変化がなく、依然として不十分であることから、今後も単位の実質化を促進するための具体的な改善方策について、「内部質保証推進委員会」のもと検討を重ねていくよう改善が望まれる。</p>
No.	種 別	内 容
2	基準	基準5 学生の受け入れ
	提言（全文）	<p>収容定員に対する在籍学生数比率について、経営情報学研究科博士前期課程で0.06、同博士後期課程では0.11、国際人間学研究科博士前期課程では0.38、教育学研究科修士課程では0.04と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。</p>
	検討所見	<p>中長期計画である「学園ビジョン2021-2025」に「大学院の定員充足率の改善」を目標に掲げ、博士</p>

中部大学

		<p>前期課程・修士課程においては、「持続社会創成教育プログラム」を開設し、博士後期課程では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「次世代研究者挑戦的研究プログラム」への採択による博士後期課程学生支援プロジェクトを 2022 年から開始し、研究奨励費による経済的支援等に取り組むなどの諸施策を推進するとともに、同年に「大学院定員充足率改善検討委員会」及びWGを設置し、入学定員の見直し等の検討を行うなど改善・向上に取り組んでいる。</p> <p>これらに取り組んだ結果、国際人間学研究科博士前期課程の収容定員に対する在籍学生数比率は改善が認められるものの、経営情報学研究科博士前期課程で 0.01、教育学研究科修士課程では 0.25 と低く、経営情報学研究科博士後期課程では在籍者がいないため、大学院の定員管理を徹底するよう、引き続き改善が求められる。</p> <p>なお、大学評価時は提言の対象ではなかった人文学部英語英米文化学科において、過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率の平均が 0.79、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.77 と低い。また、在籍学生数比率について、工学部応用化学科で 0.89、応用生物学部食品栄養科学科で 0.83 と低い。ため、学部の定員管理を徹底するよう是正されたい。</p> <p>くわえて、大学院の在籍学生数比率については、工学研究科博士後期課程で 0.28、国際人間学研究科博士後期課程で 0.25 と低い。ため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。</p>
--	--	---

<再度報告を求める事項>

なし

<弾力的措置にかかる要件の充足状況>

弾力的措置にかかる要件	前回の評価結果 における提言	改善状況
ア) 基準 2 「内部質保証」に関し、是正勧告及び改善課題	無	—

中部大学

のいずれも提言されていない。		
イ) 基準4「教育課程・学習成果」に関し、是正勧告が提言されていない。	無	—
ウ) 基準4「教育課程・学習成果」の学習成果の測定に関しては、改善課題も付されていない。	無	—

以上